

世の中には目が二つ、口は一つと言うように、調和の取れる形が御座います。人生は調和が大切です。持って生まれたものも御座いますが築いていくものも沢山ある訳です。

六月はジュン・ブライドと言ひ。二人の新しい生活が始まります。インド最古の典籍といわれるヴェーダの中に、男にして妻を得ざるは半分なり。童幼の群れおらざる家は墓地のごとし」と、妻と子息あつてこそ、初めて完全な人と称されたのです。皇室では秋篠宮家の長女眞子さまが小室 圭さんと婚約されました。おめでたい事です。合縁奇縁、縁は不思議なものです。何処の誰に赤い糸が結ばれているのか分かりません。縁は異なるもの山川超えて山葵は刺身のツマになる」。夫婦の結び付きの話です。要するに離れた山と海が結ばれて、お互いの働きが価値を高め味わいも深めたのです。当に合縁奇縁なりと。韋応物の詩に妻は 孝恭遵 婦道 容止順 其猷」孝と恭とを以つて、婦の道を遵りなさい。容と止とは其れ猷に順えよ、と。

結婚すればやがて子供に恵まれます。男の子でも女の子でも仏の子として誕生する訳ですから、男を生みても喜ぶ勿れ、女の子たりとも悲しむ勿れです。夫婦の生活は白居易によれば妻は生きては同室の親となり、死しては洞穴の塵と為らん」と言っています。妻は親族の中に融和

し、最後は同じ墓に眠りましょう。現在、お墓事情も変わりましたが私は家族を一つの単位に考えています。何故ならば、関 牧翁禅師の言葉を借りれば 大間一人の身体に、どれだけの先祖の血が入っているか。親で二人、祖父母で四人、というように二十代も遡ると百万人の素質が、私と言う、この身体に入っている事が解るでしょう」と、私も前に説明しましたが自分を知ると言う事は並大抵の事ではありません。我々の肉体は佛よりあたえられたものであり。粘土で作った物でも、細胞を組み合わせて親が造った物でも無し、ましてや魂を入れて動くようにした人はだれ一人いません。この世に生まれて、ご先祖の無い方ありません。故に、ご先祖ほど大切なものはありません。ご先祖をないがしろにして正常な人生街道を歩みゆくことは不可能です。結婚とは両家の血統、両家の血を混ぜ合わせて相続を作っていくのです。人は煩惱の中に生きています。欲望をすべて満たさないと幸せでは無いと、お考えならば、それは不幸の始まりとなります。次から次へと湧き出る煩惱に押しつぶされ、幸福感を味わう事が出来なくなってしまうからです。大応禅師の崇福禅寺語録に 光陰矢の如く、日月は流るゝ如し。事物はまたたく間に過ぎ行き、いつしか頭には白髪を加える。寒暑に左右されず、世縁にこだわらないには、どの様に真如の風光と連絡を通じたらよいか。初冬も仲冬も、無事安泰」と、悪行も千里をはしるなら、善行も千里はしるなり、吾が身を修めて、仏道に邁進するが良からう。さすれば無事安泰なりと天は万物をおおい、地は万物をのせ、日月は下界を照らす。陰陽の交替、四季の推移、折々に咲く花……すべてわが家の真実の機縁、いささかのまごりものもない」。全く自然法爾の姿無上甚深微妙の法です。精進は夫婦相和し、家族相和し出立ちかな。